

本日ここに平成 30 年度入学式を挙げるに当たり、新入生並びに御列席頂きました御父母・御家族・御友人の皆様に対し心より御祝いを申し上げます。

今年、千葉工業大学は 8 万人を超える志願者を集めました。大変な難関を突破し晴れて千葉工業大学の入学式を迎えられた皆さんの感慨もひとしおだと思います。今日、才気溢れ前途洋々たる皆様をお迎え出来たことは、千葉工業大学にとりまして大きな慶びであります。

千葉工業大学は昭和 17 年に旧制大学として創立されました。日本では国立の東京工業大学に次いで 2 番目に長い歴史を持つ工業大学です。戦前は官立以外の大学において工学教育を行うことがなかなか認められなかったこともあり、工学部を設置できた私立大学はごく僅かでした。その中でも創立時から大学予科 3 年・本科 3 年の教育課程を認められたのは、早稲田大学、慶應義塾大学そして千葉工業大学の 3 つの大学だけでした。

昭和の初め、日本の工業技術は欧米先進国のそれと比べ大きな遅れをとっていました。我が国を代表する先進的なエリート・オピニオンリーダーであった東久邇宮稔彦殿下、教育学者の小原國芳先生、森財閥の森曉先生、作家の武者小路実篤先生らが、欧米に負けない優れた工業人材を育成するために創立したのが本学です。磁性物理学の世界的権威である本多光太郎先生、八木アンテナで知られる八木秀次先生らが参加して開学した本学には、創立当初から官民挙げて大きな期待が寄せられていました。開学 3 年目の入学試験には定員の約 45 倍の受験生が殺到し、当時の若者たちの羨望を集めた大学であったことが窺えます。

彼らと共に本学の創立に大きく関わった我が国を代表する哲学者である西田幾多郎先生は、本学の設立趣意書に「広く世界に知識を求める好学心を持ち、日本だけではなくアジアを背負い世界文化に尽力する人物を養成する」と書き、建学の趣旨を明らかにしました。この理想は「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神として、本学に関係する全ての人々によって今日まで脈々と受け継がれています。グローバル化した世界において、人々が未来への確かな指針を待ち望んでいる現代社会において、世界を目指して創立され、常に世界を意識して発展してきた千葉工業大学の重要性は益々高まり、人類の未来を切り拓くための創造性を生み出す源になるものと考えます。今日入学された皆さんには、常に「世界に通用する社会人になる」ということを意識して大学生活を送って頂きたいと思えます。

私事ではありますが、私は 35 年前に大学に入学しました。そして入学した年に、ノーベル化学賞を受賞された福井謙一先生にお会いして直接お話を伺える機会がありました。学生が主体となって開催した科学展を是非見て頂きたいと福井先生に手紙を書いたところ、多忙なスケジュールを割いて私たちの展示会を見にわざわざ京都から上京し来校してくださいました。福井謙一先生は、我が国では初めての工学部出身のノーベル賞受賞者であり、初めてのノーベル化学賞の受賞者でもあります。先生は、理学の使命は自然界の真理を探究することであり、工学の使命は理学が導いた真理に基づき価値を探究することであること。但し、理学と工学は常に相補的な関係にあり、価値を探究する過程で新たな真理が発見されることが多々ある、ということを教えてくださいました。これは、今でも私の工学に対する考え方の基本になっています。なお余談ですが、現在では、日本出身のノーベル賞受賞者 26 名のうち、理学を修められた方が 12 名、工学を修め

られた方が 8 名います。

京都帝国大学総長から本学の初代学長になった、哲学者・教育学者の小西重直先生も、昭和 22 年の著書「民主教育の本質」の中でこう述べています。「国土は狭小となり、天然資源にも恵まれない日本は、逆に人口の激増を来たし、国民同胞の生活が不安に陥って居る現状である。科学は真理の追求であり、直接に生活の安定を企図するものではない。工業に関する技術は性質上科学よりは直接に実際生活に関係を有するのであるが、この技術も単に実際生活に対する福利便宜の手段と見るべきではない。この技術は技術の研究として夫れ自身目的として発達が要望され、而も其の発達せる技術によって、社会は改善され、実際生活が向上される。人は技術を生活の手段として使用するのみではなく、技術夫れ自身が目的として人の向上進歩を指導するような地位を技術に興うべきである。」

千葉工業大学の設立趣意書には、「この工業大学は、自ら学び、自ら体験し、自ら模索し、自ら創造する力をつけさせ、いかなる困難に遭遇しても正しいことを実現しようとする活動力（バイタリティ）のある人材を生み出すことを念願しており、決して単なる知識人や技術者を育成するものではない」と書かれています。これを実現するために、これから皆さんは様々なことを学びます。

この場には学部生の皆さんと大学院生の皆さんがいらっしゃいますが、専門性を高め学問と研究を極めるために集まった大学院生の皆さんは、まさに英知の集団と言えます。専門的な知識や語学力そして研究能力を更に高めることは勿論のこと、弛まず取り組む実行力やリーダーシップを身につけてください。

学部生の皆さんは、最初に優れた工業人材になるための基礎となる教養を高める科目を多く履修します。専門科目の基礎となる数学・理科や語学の力、国際社会等を理解する力を徹底して高め、体育の授業では果敢にして実行力のある意志を培って頂きたいと思います。また、課外活動を通じて純粹かつ崇高な情操を養い、豊かなそして堅実な人格を陶冶して欲しいと思います。

それぞれの学科の専門科目では、講義・演習・実験等を通して、先人が残してくれた多くの優れた知見・設計法の技術等を徹底的に修めてください。卒業研究や修士研究では、自ら発見し、証明し、人に伝える醍醐味を味わってください。

今社会は、即戦力となる人材、高度な専門性を有した人材を求めています。このような人材として、大学院修士課程修了者が注目されています。一例として、国連をはじめとする国際機関では、一部の例外を除いて修士号以上の学位を有することが採用の条件になっています。日本の大企業においても、技術系の採用枠の多くを修士課程修了者に与えるところが増えています。これは参考に過ぎませんが、日本とアメリカでは、既に修士課程修了者の平均的な生涯所得が学部卒業者のそれよりも 16.5%高くなっていることから、各所の主要なポジションには大学院修士課程修了者が多く就いているという研究成果も発表されています。皆さんには将来グローバルリーダーとして活躍して頂きたいと思っていますので、私は多くの人に、学部卒業後は大学院修士課程へ進学することを、今から強く薦めたいと思います。

千葉工業大学に入学された皆さんが充実した大学生活を送られることを願っています。これからの学生生活において自己の可能性を最大限に引き出し新しい課題に果敢にチャレンジされることを心から期待して私の式辞といたします。

千葉工業大学御入学おめでとうございます。

平成 30 年 4 月 1 日
千葉工業大学 学長 小宮一仁